



九中だより

令和5年9月15日(金)

第5号

立川市立立川第九中学校 校長 敦澤 雅規

TEL042-535-1415 Fax042-534-6958

教育目標 やさしく・かしこく・たくましく

2学期が始まりました

校長 敦澤 雅規

39日間の夏休みがあっという間に終わり、2学期を迎えました。1学期の終業式では「主体的に過ごす夏休み」「自分の成長にとっての大きなチャンスの夏休み」にしてほしいと話をしましたが、きっとたくさんの体験や学びがあったことと思います。生徒たちはとてもいい顔をして2学期始業式を迎えました。ご家庭や地域でのご協力、ありがとうございます。2学期は2年生の職場体験や3年生の修学旅行に始まり、全校での音楽学習発表会に収穫祭と、楽しみな行事が目白押しです。2学期も「生徒一人ひとりが目を輝かせ、ワクワクしながら前向きに活動できる学校」を目指して教育活動に取り組んでいきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【2学期始業式より】

39日間の夏休みが終わりましたが、「自分で決めて実行してみる」主体的に過ごす夏休みにはできましたか。部活動では、大会や招待試合、練習試合、コンクールなど、さまざまな舞台があったことと思います。目標に向かって前向きに取り組んだことは貴重な経験になったはずですし、これまで積んできた努力は間違いなく皆さんの力になっています。



さて、毎年開催される夏の風物詩、全国高校野球選手権大会を観た人はいますか？今日は、今年の優勝校「慶應義塾高校」、ではなくて、決勝戦で慶應義塾高校に敗れた昨年の優勝校、仙台育英高校の話をしてしたいと思います。須江監督率いる仙台育英高校は、昨年度の優勝校で、今年も優勝すれば史上7校目の連覇でした。きっと高校生の選手たちもそれを強く願っていたことでしょう。もちろん監督も。でも負けてしまいました。須江監督は試合後にこう言ったそうです。「2年連続で決勝の舞台に立てるなんて、奇跡。単純に慶應さんのスイングがよく、強かった。不思議ですね、もっと悲しいかなって思っていたが、慶應さんをたたえたいなって心から思える。」

さて、須江監督はどうして晴れ晴れとした気持ちになれたのでしょうか…？

須江監督は、こんな話を地区予選大会で選手たちに言ったそうです。「負けた時に人間の価値が出る。グッドルーザーであれ」。(グッドルーザーとは、負けても潔い人、潔く負けを認める人)

甲子園の大会が終わって閉会式、慶應監督のあいさつや選手のインタビューの時に、仙台育英の選手たちは全員視線を相手に向けすべてのコメントにみんな一生懸命拍手をしていたのです。それまでの選手の精神面の成長と共に、その態度、姿勢に須江監督は「誇り」を感じたのだそうです。

みなさんもこれまでに、なかなかうまくいかなくて困ったこと、悩んだこと、辛かったことがあったと思います。また、これからもきっとそんな場面に出くわすと思います。でも、そんな時こそ成長できるチャンスなのかもしれません。「グッドルーザーであれ。」その経験を糧にして、2学期もパワーアップしてほしいと思います。そして仲間や周りの人に思いやりを配ってください。

3年生にとっては、中学校生活も残すところあと7ヶ月です。進路決定に向けて、悔いの残らないよう一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。1、2年生にとっては、いよいよみなさんが、この立川九中を動かしていく番になります。新しい生徒会役員の人たちが中心となり、九中の良き伝統を引き継ぎ、自分を信じ、仲間を信じ、認め合い励まし合いながら、生徒全員が九中生であることに誇りを持てるような学校を作りたいと強く願っています。2学期も楽しく過ごしましょう！

